



物流と人のハーモニー
TRANCY

第 102 期 中間報告書

2015年4月1日 ▶ 2015年9月30日



日本トランスシティ株式会社

証券コード：9310



平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループの第102期中間期（2015年4月1日から2015年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当社グループは、創業以来、「事業を通じて社会に貢献すること」を使命とし、企業の社会的責任（CSR）を果たすとともに、企業価値の向上と企業の持続的な発展を目指し、事業活動に取り組んでおります。

今後とも当社グループ一丸となり、お客さまに最高のサービスを提供し、社業の発展と経営の強化に邁進することにより、株主の皆さまのご期待に応えてまいりたい所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年12月

取締役社長

小川謙

人と人を結び、都市と都市をつなぎ、新しい夢と文化を育む 日本トランスシティグループ

企業理念

事業領域

- グローバルな視点から、システムティックな物流と新たな活動分野を創造する

社会的役割

- 地域とともに生き、広く社会の発展に貢献する

企業文化・風土

- 人間性豊かな、高感度・行動型集団を目指す

次代を目指すトータルロジスティクスサービス

国内倉庫管理システムや国際情報システム等を活用して海外から国内までの一貫したサプライチェーンの可視化を実現します。

お客様の商品の特性に合わせた保管荷役と在庫管理情報の提供等を行うとともに、お客様に最適な物流戦略拠点を提供します。

検品、ラベル貼付など、多様な物流加工サービスを提供し、お客様のSCMを総合的にサポートします。



■ 海外ネットワーク

ドイツ

デュッセルドルフ

チェコ

プラハ

アメリカ

エルパソ、メアリスビル、シンシナティ、レキシントン、サンアントニオ

メキシコ

アグアスカリエンテス

中国

大連、青島、上海、深圳、香港

フィリピン

マニラ

ベトナム

ハノイ、ホーチミン

カンボジア

プノンペン

ミャンマー

ヤンゴン

タイ

バンコク、レムチャバン

マレーシア

クアラルンプール、クアタン

インドネシア

ジャカルタ、スラバヤ

株主の皆さまへ

営業概況（連結）

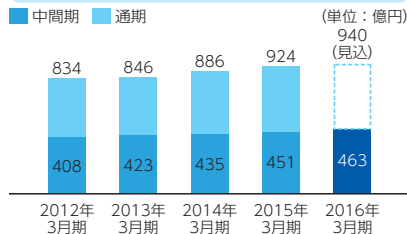
当中間期における当社グループの営業概況につきましては、総合物流事業において、倉庫業では、物価の上昇に伴う個人消費の停滞感などから、消費財を中心に取扱いは弱含みで推移し、倉庫保管残高ならびに物流加工業務の取扱量は前年同期に比べ減少しました。港湾運送業では、円安基調の継続により、輸出貨物の取扱量は前年同期に比べ増加しましたが、輸入貨物は消費財や原料関係を中心に減少し、四日市港における海上コンテナおよび輸入原料の取扱量は減少しました。陸上運送業では、国内貨物に活発な荷動きは見られず、トラック輸送および鉄道輸送の取扱量は減少しました。国際複合輸送業では、円安基調の継続により、海上輸送の輸出の取扱量は増加しました。

その他の事業につきましては、依然として厳しい環境下ではありましたが、業務の効率化や収支改善に努めました。

以上の結果、当中間期の連結売上高は、港湾運送の取扱いが前期に引き続き低調に推移したものの、連結子会社が増加したことに加え、海外での取扱いが堅調に推移したことにより、前年同期比2.6%増の463億4千4百万円となりました。連結経常利益は、持分法による投資利益等の減少があったものの、海外子会社の寄与に加え、退職給付信託一部解約による退職給付費用ならびに会計方針の変更に伴う減価償却費の減少などにより、前年同期比4.2%増の21億9千3百万円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は、法人税等の増加などにより、前年同期比1.1%減の13億6千2百万円となりました。

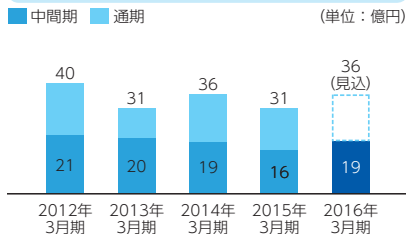
■ 売上高

463億円 (前年同期比2.6%増)



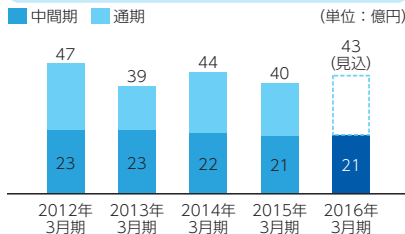
■ 営業利益

19億円 (前年同期比22.5%増)



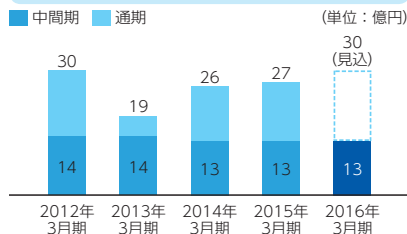
■ 経常利益

21億円 (前年同期比4.2%増)

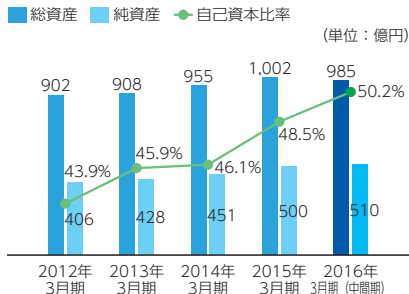


■ 親会社株主に帰属する中間（当期）純利益

13億円 (前年同期比1.1%減)



■ 総資産・純資産・自己資本比率



■ 通期予想

売上高	940億円
営業利益	36億円
経常利益	43億円
親会社株主に帰属する当期純利益	30億円

今後の課題

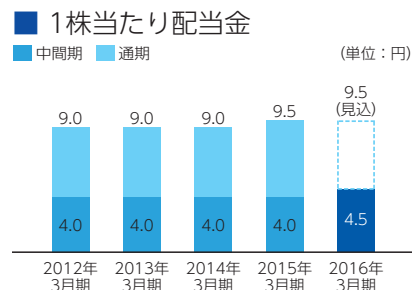
当社グループでは、「中期経営計画」に基づき、前期に策定したアクションプランを着実に実現してまいります。具体的には、国内ロジスティクス事業の強化策といたしまして、四日市港霞ヶ浦北埠頭における新倉庫の建設、埼玉県幸手市における消費財物流センターの建設に向けた取組みを進めてまいります。また、予防的コンプライアンスの更なる充実を図るため、本年4月に策定した「グループ企業倫理要綱」をグループ全体に浸透させ、更なるガバナンスの強化を図ってまいります。最後にCSR経営の推進策といたしまして、水素供給事業に参画し、本年7月、三重県初の水素ステーション運営会社を当社を含めた4社の共同出資で設立いたしました。今後は、県内における水素の安定供給、循環型社会の形成に貢献してまいります。

配当について

当社は、安定的な配当を基本とし、今後の経営環境の変化を踏まえ、財務体質の強化にも配慮しつつ、長期的・総合的な視野に基づく配当を実施したいと考えております。

第102期中間配当につきましては、業績を勘案いたしまして、1株につき4円50銭とさせていただきます。

今後も経営環境等を総合的に勘案し、安定的な配当を実施してまいります。



日本トランスシティグループ 中期経営計画

「Challenge to the New Stage」－挑戦－

新しい価値を創造する企業に生まれ変わり、スピード感のある革新的ソリューションで、国内外のロジスティクス事業を拡充する

数値目標：連結売上高1,000億円以上、連結経常利益50億円以上

投資計画：投資総額 200億円

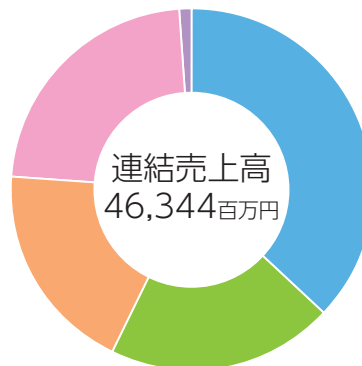
期間中の投資は、計画的かつ積極的に行う

経営戦略

- 国内ロジスティクス事業の改革
- グローバルロジスティクス事業の拡充
- グループ経営基盤の強化
- CSR経営を重視し、地域社会の発展に貢献する

セグメント別営業概況

倉庫業	37.2%
港湾運送業	20.2%
陸上運送業	18.9%
国際複合輸送業・その他	22.6%
その他の事業	1.1%



倉庫業

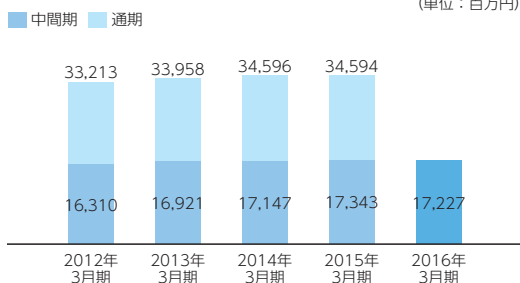
売上高 **172**億円

当部門におきましては、期中平均保管残高は前年同期比2.9%の減少となりましたが、期中貨物入出庫トン数につきましては、前年同期比3.2%増の325万5千トンとなり、保管貨物回転率は60.3%（前年同期56.7%）と上昇しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比0.7%減の172億2千7百万円の計上となりました。



売上高の推移



港湾運送業

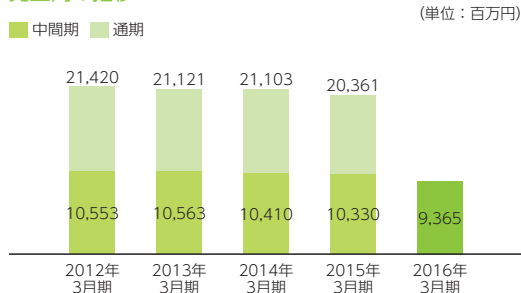
売上高 **93**億円

当部門におきましては、四日市港における海上コンテナの取扱量は前年同期比0.8%減の10万1千本（20フィート換算）となり、輸入原料の取扱量や完成自動車の取扱量も減少するなど、全般的に低調に推移しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比9.3%減の93億6千5百万円の計上となりました。



売上高の推移



陸上運送業

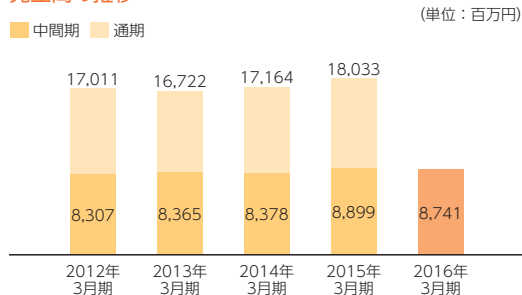
売上高 **87**億円

当部門におきましては、主力のトラック輸送および鉄道輸送にかかる取扱量は前年同期に比べ減少しましたが、バルクコンテナ輸送の取扱量は前年同期比3.1%の増加となりました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比1.8%減の87億4千1百万円の計上となりました。



売上高の推移



国際複合輸送業・その他

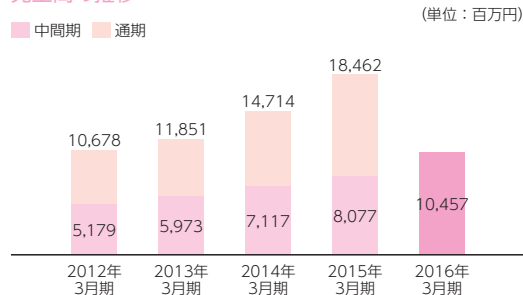
売上高 **104**億円

当部門におきましては、円安基調の影響などにより、海上輸送の輸入の取扱量は前年同期に比べ減少したものの、輸出は増加しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比29.5%増の104億5千7百万円の計上となりました。



売上高の推移

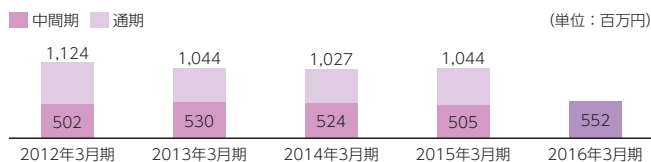


その他の事業

売上高 **5**億円

その他の事業におきましては、売上高は、前年同期比9.4%増の5億5千2百万円となりました。

売上高の推移



特集 Trancy Logistics (Malaysia) Sdn. Bhd.

当社グループでは、ASEAN域内においてグローバル物流機能の強化に取り組んでおりますが、今回は、東南アジアの重要拠点のひとつであるマレーシアにおける物流サービスの現況につきまして、ご紹介いたします。

通関サービス

クアantan、ポートケランの両港におきまして、通関サービスを提供しております。



倉庫サービス

クアantan地区にて、11,700坪の倉庫を賃借し、倉庫サービスを提供しております。

フォワーディングサービス

コンテナ取扱数世界12位のポートケラン港においてフォワーディングサービスを提供しております。



マレーシア現地法人

名 称：Trancy Logistics (Malaysia) Sdn. Bhd.
設 立：2000年9月
営 業 拠 点：クアラルンプール、クアantan
従 業 員 数：約130名
倉庫所管面積：11,700坪
主要取扱貨物：ガラス繊維、石油化学製品、その他化学品他



マレーシア現地法人では、保管、配送、物流加工などの国内物流サービスに加え、通関、国際輸送を組み合わせ、世界とアジアを結ぶ高品質サービスを提供してまいります。

CSRの取組み

当社グループでは、CSRを通じて地域社会の発展に貢献できるよう取り組んでおります。今回は、その活動の一部をご紹介します。

三重県初となる水素ステーション運営への取組み

当社は、住友電装株式会社、三重トヨタ自動車株式会社、谷口石油株式会社とともに、移動式水素ステーションによる燃料電池車*向け水素供給事業を行うため、本年7月、三重県四日市市に合弁会社「みえステーション合同会社」を設立いたしました。

新会社においては、三重県初となる商業用移動式水素ステーションの運営を行い、三重県における燃料電池車の普及を支援するとともに、環境にやさしい地域づくりの一助となるため、水素ステーションの来春開業を目指して取り組んでおります。

*搭載した燃料電池で水素と酸素を化学反応させて発電し、その電力でモーターを回して走行する車。走行中は二酸化炭素などの有害な排気ガスを出さない。



写真は住友電装株式会社所有の燃料電池車「MIRAI」

四日市市消防団「海上分団」の取組み

当社グループでは、昭和26年から消防団を設置し、本社を置く四日市港周辺の消火活動等をしております。

海上分団は、就業時間中に災害が発生した場合、出動することが認められており、企業として、地域住民を守るための活動を支援しております。また、海上分団は消火活動、自然災害への対応、警戒巡視のほか、毎年開催される消防操法大会、出初式にも参加するなど、日頃から訓練ならびに消防技術の向上に励み、地域防災への貢献に努めております。



中間連結貸借対照表

単位：百万円

科目	前期末 2015年3月31日現在	当中間期末 2015年9月30日現在
資産の部		
流動資産	28,055	26,439
固定資産	72,147	72,148
有形固定資産	51,083	50,871
無形固定資産	1,088	1,151
投資その他の資産	19,974	20,125
資産合計	100,203	98,587
負債の部		
流動負債	23,284	16,264
固定負債	26,842	31,233
負債合計	50,127	47,498
純資産の部		
株主資本	46,825	47,948
資本金	8,428	8,428
資本剰余金	6,732	6,750
利益剰余金	32,771	33,878
自己株式	△ 1,107	△ 1,108
その他の包括利益累計額	1,767	1,501
非支配株主持分	1,483	1,639
純資産合計	50,076	51,088
負債純資産合計	100,203	98,587

中間連結損益計算書

単位：百万円

科目	前中間期 (2014年4月1日から 2014年9月30日まで)	当中間期 (2015年4月1日から 2015年9月30日まで)
売上高	45,156	46,344
売上原価	40,755	41,587
売上総利益	4,401	4,756
販売費及び一般管理費	2,783	2,774
営業利益	1,617	1,981
営業外収益	621	329
営業外費用	133	118
経常利益	2,105	2,193
特別利益	9	17
特別損失	3	9
税金等調整前中間純利益	2,111	2,201
法人税等	694	748
中間純利益	1,417	1,453
非支配株主に帰属する中間純利益	39	90
親会社株主に帰属する中間純利益	1,377	1,362

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	前中間期 (2014年4月1日から 2014年9月30日まで)	当中間期 (2015年4月1日から 2015年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,725	1,923
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,849	△ 937
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,014	△ 2,405
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11	32
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,149	△ 1,387
現金及び現金同等物の期首残高	12,648	11,652
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	198
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,498	10,463

Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済により78億7千1百万円を支出し、また短期借入金10億円、長期借入金50億円を資金調達しました。

会社の概要 (2015年9月30日現在)

社名 日本トランスシティ株式会社
 英文社名 Japan Transcity Corporation
 創業 1895年(明治28年) 7月12日
 設立 1942年(昭和17年) 12月28日
 資本金 8,428,059,616円
 上場取引所 東京(第一部)、名古屋(第一部)
 証券コード 9310
 従業員数 2,266名(連結) 735名(単体)

事業目的

1. 倉庫業
2. 港湾運送業
3. 貨物自動車運送業
4. 貨物利用運送業及び代理業
5. 国際複合一貫輸送業及び代理業
6. 通関業
7. 医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器の包装、表示及び保管業
8. 発電及び電気の供給に関する事業
9. 不動産の売買、賃貸借及び管理業
10. スポーツ施設の経営
11. 自動車整備業
12. その他

役員

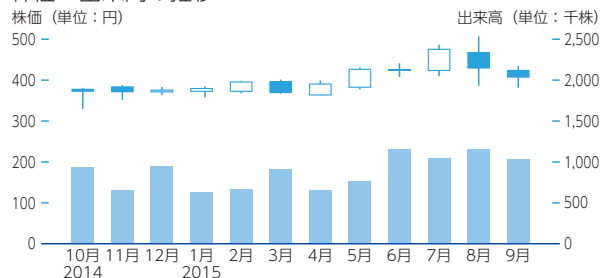
代表取締役会長	小林 長久	取締役	豊田 長康
代表取締役社長	小川 謙	取締役	武内 彦司
専務取締役	北川 譲治	監査役(常勤)	須田 英一
専務取締役	平野 理	監査役(常勤)	伊藤 豊久
専務取締役	平子 隆生	監査役	綿貫 繁夫
専務取締役	横山 修一	監査役	伊藤 吾郎
常務取締役	山下 潤	監査役	永田 昭夫
常務取締役	岡村 光喜		
取締役	小菅 能正		*取締役 豊田長康、取締役 武内彦司の両氏は社外取締役であります。
取締役	安藤 仁		*監査役 須田英一、監査役 綿貫繁夫、監査役 伊藤吾郎、監査役 永田昭夫の4氏は社外監査役であります。
取締役	小森 信弥		
取締役	森 恒夫		
取締役	後藤 孝富		

株式の概要 (2015年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 240,000,000株
 発行済株式の総数 67,142,417株
 株主数 3,812名

株価・出来高の推移



大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
明治安田生命保険相互会社	4,000	6.2
東京海上日動火災保険株式会社	3,564	5.5
日本トランスシティ社員持株会	3,321	5.2
蒼栄会	3,319	5.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,843	4.4
株式会社百五銀行	2,683	4.2
株式会社三重銀行	2,668	4.1
株式会社みずほ銀行	1,848	2.9
ピービーエイチポストンフォーノムラジャパン スモラーキャピタルライゼーションファンド620065	1,624	2.5
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,501	2.3

*持株比率は、自己株式(2,828,922株)を控除して計算しております。

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月		
期末配当金受領 株主確定日	3月31日	公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.trancy.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
中間配当金受領 株主確定日	9月30日		
株主名簿管理人		【ご注意】	
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。	
		2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。	

ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しておりますのでご活用ください。

<http://www.trancy.co.jp>



(見通しに関する記述等についてのご注意)

この報告書に記載されている業績予想や将来に関する記述等は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき合理的であると判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、様々な要因により見通しと大きく異なる可能性があります。

物流と人のハーモニー
TRANCY
日本トランスシティ株式会社

〒510-8651 三重県四日市市千歳町6番地の6
TEL 059-353-5211
ホームページ <http://www.trancy.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

